

# ふくくうきょう ～ここまで進んだ腹腔鏡手術のお話～



川崎幸病院 副院長  
消化器病センター長  
関 川 浩 司



平成24年春移転開院予定「川崎幸病院」

世界に誇る野球の王監督が、胃がんの手術を腹腔鏡手術で行ったという話を、耳にした方も多いと思います。今回は消化器外科領域における腹腔鏡手術についてお話しします。

腹腔鏡手術の歴史は意外に浅く、1989年フランスのミュレという産婦人科医が、胆嚢摘出術を行ったのが世界での報告の第一例目ですが、我が国で初めての胆嚢摘出術がこの川崎市で行われたという話を御存じの方は少ないと思います。この手術手技はこれまでの‘お腹を切る’というのではなく、5mmから1cmほどの孔をお腹にあけて、そこよりカメラや電気メスや臓器を把持する道具を入れて手術をする方法であり、傷口が小さく、術後の運動などへの影響が少ない、いわゆる低侵襲な手術と言われています。我が国でこの手術が腹部外科で開始された1990年には、全国でわずかに381件に過ぎなかったものが、2009年には60800件にも上っております。また、消化器関連の対象疾患としては胆石症のみならず胃がん、大腸がん、虫垂炎、胃・十二指腸潰瘍穿孔、腸閉塞、ヘルニア手術など多岐にわたっております。特に最近では、高い難度の手術と言われる胃がん、大腸がんの手術も内視鏡外科技術認定医のいる一般病院でも安全に行われており、これまでの手術の概念が大きく変わろうとしております。

## 《腹腔鏡手術の特徴》

- ①術後の痛みが少ない
- ②術後早期離床が楽
- ③術後の創部が小さく目立たない
- ④術後の運動が楽

## 《腹腔鏡手術の注意点》

- ①手術適応症例が限られる場合がある（全身状態、病期の進み具合による）。
- ②腹腔鏡手術から開腹手術へ移行する場合がある。

**【腹腔鏡手術】**  
お腹に入れたカメラの映像モニターを見ながら手術をします。



## 市民健康講座のご案内

(事前の申し込みは必要ありません。参加費は無料です。)

テーマ：『ここまで進んだ消化器がん治療』～胃がん・大腸がんを中心に～

日 時：5月21日（土） 10:30～11:30

会 場：ミューザ川崎シンフォニーホール4階『市民交流室』（JR川崎駅より徒歩3分）

講 師：関川 浩司先生（川崎幸病院 副院長・消化器病センター長）

最新のがん治療や腹腔鏡手術等について、わかりやすくお話し頂きます。ぜひご参加下さい。



社会医療法人財團 石心会

**川崎幸病院** 川崎市幸区都町39-1  
044-544-4611（代表）

